



巻頭 特別企画

特別講演会に寄せて

2024年5月26日(日)、北山修先生(九州大学名誉教授、白鷗大学学長)をお招きし、九州大学西新プラザにて特別講演会を開催いたしました。当日は100名近い参加者の方にお集まりいただき、盛況のうちに会を終えることができました。

『『むなしさ』の味わい方』というテーマで、日本の文化や芸術、音楽などの視点も交えながら、人生の「むなしさ」を味わうということ、そしてその難しさや大切さについてお話しいただきました。ご講演を通して、受講者の皆様がそれぞれに、普段の臨床や人生という旅の在り方について考えるきっかけを得られたのではないかと思います。

こだちNewsではこれまで、こだちにゆかりのある先生方から「巻頭言」としてお言葉をいただいていたのですが、今回は、特別講演会の日、当法人理事長の黒木・専務理事の金子と北山先生とのお話の中で“こだちに寄せるお言葉”をいただきましたので、「特別講演会に寄せて」という特別企画にて編集することにいたしました。

先生の語り口調をそのまま掲載しておりますので、ぜひ皆様にもお話の雰囲気を感じていただくと幸いです。

目次

巻頭特別企画：特別講演会に寄せて -1

2023年度事業報告 -4

2024年度事業計画 -5

2024年度
研修会・講演会案内 -6

相談員募集案内 -7

金子) ご著書「むなしさ」の味わい方(岩波書店,2024)の中で、精神分析活動をされるってということが大事だと。一般の人たちには心の沼とかですね。そういったことがやっぱりわからないし、避けがちなので、精神分析活動をするのは大事だけれどもあんまり理解されず、後ろ指差されてしまうということについて…

以下、北山先生) 人は差別するとどっちかが偉くてどっちかが見下される。1位と2位、あるいは優劣、あるいは強弱をつけたがるね。そういうものなんだ。世の中ってというのは、上位にあるものと下にあるもの、弱者と強者、男と女、早く走れるものと遅いもの、優れたものと劣ったものかっていう、差別と言われてもいいし、階級と言われてもいいし、区別が生まれるわけだよね。

それで僕は、今この世間の中で皆さんが困っていることは、人を排除したり、馬鹿にしたり、軽蔑したり、見下したりってこの情緒、この気持ちを処理するのがすごく大変なんだと思うんですよ。これは人類が生まれて以来ずっと困っている情緒だと思うんだよね。人っていうのは、区別とか差別とか見下したりしながら、自分が偉くなったり、自分を律したり、自分を立て直したりして、自分の自己愛とか自尊心を高めてきているわけじゃないですか。これが世の中の進歩にも貢献するわけだよ。これなくしては、多分人間進歩しないと思うんだよね。



今度はその情緒を向けられた側に立つ気持ちっていうのは、すごく大事な経験だと思うんだよね。それが、いじめられっ子の気持ちであったり、劣等生であったり、排除されるものであったり、差別されるものであったり、遠ざけられるものであったりするこの気持ちにも通じるわけだね。

そこでだ、サイコロジストが、臨床心理士が、公認心理師、サイコセラピストがこの情緒に強くなると、あるいはこの情緒を引き受けられないとダメだと思うんだよ。この情緒ってのは、主体側に立てば人を差別したり、排除したり、追いやったり、勝ったりする気持ちの方にも大事な情緒があるし、逆にそれをぶつけられた側の、被害者だとか差別される側とかいじめられっ子の気持ちっていうのに共感したり、そういう気持ちを引き受けたりすることがわからないではいられない仕事だと思うんだよ。

多分、実業界では「こんな気持ちわかんなくても構わない」と言ってるやつらがいっぱいいるんだと思うんだよね。ところが、臨床心理学は、この気持ちを理解してあげることが、差別される側、排除される側、いじめられる側の気持ちを理解してあげることが大きな仕事、課題になると思う。



それで、それでだよ。臨床心理士は、例えば医療の世界では、馬鹿にされたり、差別されたり、排除されたり、区別されたりする側に立ちやすいと思うんだよ。

ところが今、臨床心理士や公認心理師は戦ってる最中なので、この気持ちを向けられるわけにはいかないことがすごく多いと思うんだよ。馬鹿にされるとすぐにやっぱり反発するし、医師の管理の元に置かれなきゃいけないとかね。医者にはすごく差別されるとか区別されると、臨床心理士はこのごろ多くの人たち、あるいは先達も含めてえらくご立腹なさる、あるいは反発するわけだよ。

でもよく考えたら医者もそうなんだけど、医者にはやぶ医者だとか馬鹿にされる医者だとか、昔は太鼓持ち医者なんていうのもいたぐらいですよ。人に慰めの言葉を発するぐらいの仕事ぐらいしかできないような医者のことをお太鼓医者とか呼んでいたんだよね。

でも、医者が馬鹿にされてもね、どうもどうもみたいなことでやってられるところがあるんだよね。でも今、臨床心理士はさ、そういうわけにはいかないの、僕はそういう気持ちを向けられた時の臨床心理士の味わななきゃいけない情緒とか、立場だとかね、体験だとかがすごくね、失われてると思うんですよ。あるいは軽視されてるっていうか。僕、そんな現場にすごく立ち会うことが多いんですよ、スーパービジョンやってると。だから、患者さんに馬鹿にされたりね、患者さんに相手にされなかったり、患者さんからいじめられたりね。

元ミュージシャンであったり、元芸能人であったりするところは、一部においては馬鹿にされるきっかけにもなるんだよね。あいつは元芸能人だよって。でも、僕、ヘラヘラ笑ってられるんだよね。このことがね、すごく臨床家として大事なことを教えてくれている。ああ人から馬鹿にされるってこういう気持ちなんだとかね、いじめられるってこういうことなんだなっていうことが、すごく理解が深まった。その立場を引き受けることは不愉快だけでもね、こういう時に人っていじめられるんだなって、差別されるんだなって思うんだよ。

だからね、いじめられっ子とかね、世の中の差別とかってというのはどういう時に発生するかの理解がすごく進むことがある。クライアントや患者さんや、あるいはそのご両親からね、サイコロジストは馬鹿にされるなんて、こんなものは役に立たないよとか、目に見えないもの扱ってんだからね。実際のところが非常にムカつくことを言われることも多いかもしれないけどね、そういう機会を大事にしてくださいよって言いたいね。人に馬鹿にされたりね、差別されたりするっていう仕事は、サイコロジストの大事な仕事なんだよ。

でも、それで社会的に評価されないっていうことじゃなくて、むしろそれで評価される人々のはけ口になってあげることで、私たちの役割が果たせる時もあるし、そしてそれを生かして何か返すことに役に立つこともあるの。人が1番 それを向けられて、嫌だなと思う気持ちの中に、代表的なものに軽蔑されるとか、いやしまれるとかという嫌な気持ちがあるはずよ。負けるとかね、ぼろくそに言われる方がかえって気持ちがいい時もあるよ。



でもさ、軽蔑されるってすごい辛いよな。でも、この軽蔑とか、いやしい人間とか、例えば汚い、あるいは障害を持ってる、あるいは貧乏人だとかって、あるいは家の職業がこうだからとかっていう風にいやしまれるとかね、すごく辛い気持ちはもう本当に子供たちが経験してることもあるのでね。

サイコロジストこそ、それがもし向けられる立場にいることが多いのであれば、大事にしてほしいと思う次第なんですよ。

特別講演会 参加者の皆様の声

アーカイブ配信
準備中

日々、ハッキリとさせることを求められ、それとても大切なことだと思いますが、どうしようもないこと、ハッキリできないことを抱えることも大切で、特に心理師として忘れてはいけないことだと再確認できました。

色々と思いをはせながら先生のお話を久しぶりに味わうことができました。むなしさになれる、なずむ、劇的な方法ではなくそうやって生きていくのだろうと思いました。幸せな時間でしたし、むなしさを、なんならいとしく思えそうです。

クライアントさんが感じる「むなしさ」を明確な答えもなく、一緒に空間でともに味わうことも心理職にとって時には必要なのかなと思いました。答えが明確になりがちな現代において、様々な年代のCIそれぞれの「むなしさ」への対応へ思いを馳せ、いろいろと連想がわきました。

これまで積極的に精神分析に触れてこなかったためか、今回の講演も理解したような、できていないような(分りたいけど、分からないそんな「むなしさ」を感じています。それでもお話を聞いている中で感じた一瞬の「なるほど」という儂い感覚は確かに残っております。

2023年度 事業報告

臨床心理サービス事業

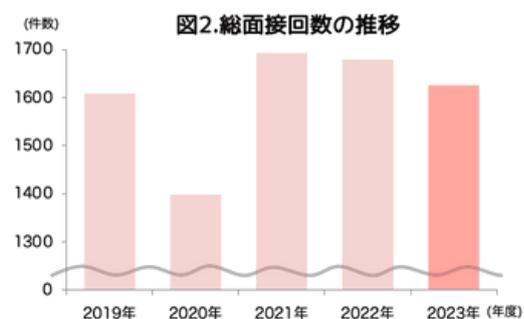
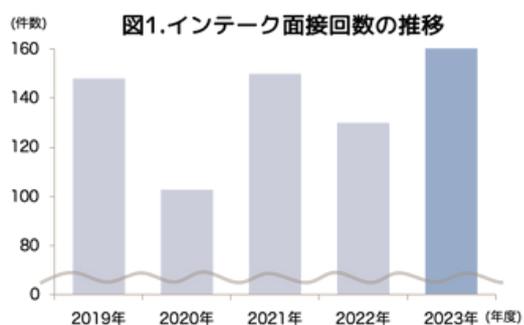
こだちでは、臨床心理士・公認心理師の資格を持った相談員の心理面接事業が大きな柱となっています。

2023年度はインテーク面接 172件(図1)、総面接回数 1625回で(図2)した。遠隔カウンセリングも継続し、利用者のニーズに合わせて支援を行いました。

相談内容は例年同様、子どもや保護者の相談(不登校、発達の相談、親子関係、友人関係等)や成人の相談(家族関係、対人面での悩み、会社の人間関係、うつ等)と、多岐にわたりました。また、必要に応じて医療機関や学校と連携しながら面接を実施したり、他機関へのリファーも行いました。

また、家庭学習支援事業の派遣回数は322回となりました。家庭学習支援員への研修や、保護者面接担当者とのシェアリングを実施することで、支援員へのサポートを行うとともに、ご家庭への支援に還元できるように取り組んでいます。

思春期居場所支援事業(ここりーと)も、継続的にご利用される方もいらっしゃるほか、随時体験会を開催しながら、参加者のニーズに合わせた活動を企画・実施し、安定して活動を行っています。



協働事業



学校・病院・行政機関、企業等へ講師派遣を行い、2023年度も様々な研修会を行いました。毎回ご好評をいただき、毎年ご依頼くださる機関も各領域に増えております。

臨床心理学の知見を活用した地域社会の貢献を当法人の設立理念として掲げていますが、会員のみなさまのご協力から、地域の多くの企業、病院、学校とのつながりがさらに広がっています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

研修事業

2023年度は、新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したことから、対面での開催を再開することができ、対面で行うことの良さを改めて実感した1年となりました。

また、コロナ禍のノウハウを引き継ぎオンライン開催やアーカイブ配信等も行ったことにより、全国の方にこだちの活動を知っていただく機会にもなりました。

研究事業・助成金

2023年度、活動助成により実施した研修会・講演会は以下の通りです。

*大阪コミュニティ財団 集団生活への適応に支援を必要とする子どもの臨床心理学的援助事業：「子どもの社会性発達支援の基礎(全2回)」研修会、「子どもの心理療法入門」研修会

2024年度 事業計画

臨床心理サービス事業

カウンセリングルーム「こだち」では、臨床心理士・公認心理師の資格を持つ相談員が心理面接を担当しています。利用者のニーズに応えるべく、体制整備を引き続き行ってまいります。

家庭学習支援事業では、不登校や発達障害を抱える児童生徒を対象として、臨床心理学を専攻している大学生・大学院生の学習支援員の派遣を行っています。

家庭学習支援は「①家庭学習支援員の派遣」「②保護者相談」「③家庭学習支援員の資質向上(研修)」の3つを1セットと定めています。



思春期居場所支援事業(ここりーと)では、不登校児童生徒やひきこもりの青少年を対象に、金曜日の13時～16時にこだちのプレイルームを使ってフリースペース活動を行っています。スタッフ数名とゲームや折り紙、おしゃべりをしたり、ゆったりとした時間を過ごしています。また、活動前後にスタッフミーティングを行い、関わり方などの話し合いを行います。

協働事業

地域のニーズに応じて、カウンセラー・講師派遣事業を継続的に実施しております。講師派遣に関しては好評のものも多く、引き続き依頼が届いている機関も多くあるほか、新しいご依頼も増えております。

今年度も引き続き、大学生・社会人等を対象としたキャリア支援講義、ストレスケア講義等の講師派遣を行ってまいります。



研修事業

2024年度も引き続き、対面・オンライン両方の研修会、講演会を企画しています。参加申し込みは左記QRコード他、こだちから送付するチラシやホームページ、SNS等にも掲載しておりますので、ぜひご確認ください。

研修会に関するご感想やご意見もお寄せいただけると嬉しいです。皆様のご参加をお待ちしております。



2024年度 これから実施予定の研修会・講演会のご紹介

受付中



事例で学ぶ テストバッテリー

講師：高橋 靖恵 先生（京都大学）

【第1回】

~~CLOSED~~ 2024年7月21日(日) 定員：30名

【第2回】

2024年11月17日(木祝) 定員：30名

事例提供者
募集



WISC・WAIS 研修会

講師：木谷 秀勝 先生（山口大学名誉教授）

~~CLOSED~~ 【初心者編】 2024年7月28日(日) 定員：65名

【中級者編】 2024年11月10日(日) 定員：65名

【事例編】 2025年2月9日(日) 定員：65名

事例提供者
募集

受付中



ころ研ABC (こだちロールシャッハ研修会初級編)

講師：船津 文香 先生
(九州大学キャンパスライフ・健康支援センター)

日程：2024年10月26日(土)

定員：30名

受付中



学校臨床に携わる心理職が知っておきたい

特別支援教育

講師：阪木 啓二 先生（九州産業大学）

日程：2024年11月16日(土)

定員：100名

受付中



子どもの 社会性発達支援の基礎

講師：浜田 恵 先生（中京大学）

【第1回】

2024年10月19日(土) 定員：80名

【第2回】

2024年12月8日(土) 定員：40名

80名



こだち設立18周年記念 公開スーパービジョン

九州大学西新プラザにて
開催予定

事例提供者
募集予定



こだち精神医学講座

講師：三木 浩司 先生（小倉記念病院）

日程：2025年1月19日(日)

定員：70名

事例提供者
募集予定

こちらのご案内は2024年7月末時点での予定となります。感染症の拡大状況により、研修会の延期や中止、開催方法変更等の措置を講ずる場合があります。

研修会の最新情報や変更時のご案内はホームページやSNSで随時お知らせいたしますのでご確認ください。



研修会案内



対面



オンライン



ハイブリッド

相談員募集のご案内

こだちでは、相談受付の増加にともない、一緒に働いてくださる登録相談員を引き続き募集しております。ご関心がありましたら、まずはこだち事務局 (jimukyoku@codachi.org) までご一報ください。

- 【業務内容】主に来談者へのカウンセリング
- 【必要資格】臨床心理士資格を有する人、当法人の正会員であること
- 【勤務時間】月曜日～土曜日の10:00～18:00の間で都合のつく曜日・時間帯。
- 【勤務場所】九州大学こころとそだちの相談室
(福岡市早良区西新2-16-23 九州大学西新プラザ内 産学交流棟)



入会のご案内

こだちは今年で18年目を迎えます。地域に定着した心理臨床サービスを継続するには、収支の安定が求められます。NPO法人の会員となって、私たちの活動を支えていただけると幸いです。会員になっていただける方はぜひ、こだちまでご連絡ください。なお、会費は1年毎の更新制です。よろしくお願いいたします。

※住所等の会員情報に変更になりましたら事務局までお知らせください。登録内容の変更はHPからも受け付けております。

- 会員(ひと口5,000円)：臨床心理士・公認心理師(予定)・医師
その他対人援助に関わる方(定款参照)
- 学生会員(ひと口1,000円)：学部生・大学院修士課程
- 賛助会員(個人：ひと口5,000円・団体：ひと口10,000円)



ご支援のお願い

当NPO法人では、会員以外の方からも、ご寄付をお待ちしております。関心や興味を持たれた方は、ぜひご連絡ください。

交通のご案内



〒814-0002
福岡市早良区西新2-16-23
九州大学西新プラザ 産学交流棟

TEL / 092-832-1345
FAX / 092-832-1346

地下鉄でお越しの方
福岡市営地下鉄空港線 西新駅下車後
7番出口より徒歩にて約10分

バスでお越しの方
西鉄バス「西新一丁目」または「今川橋」下車後
徒歩にて約10分

FOR MORE INFORMATION
最新情報配信中



九州大学 こだち

